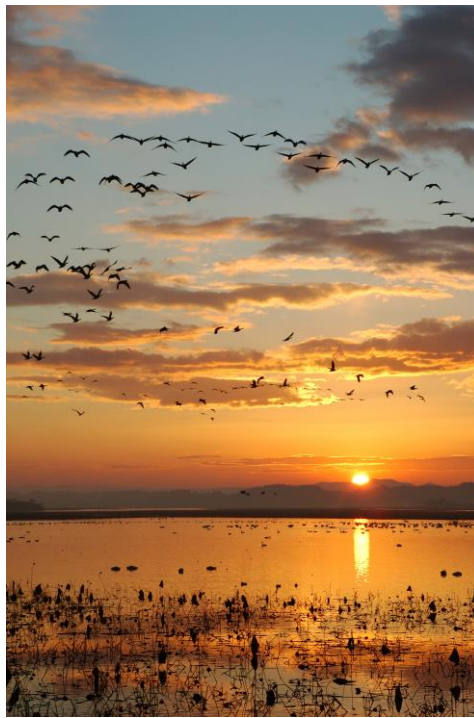


栗原地域の概要



栗駒山



伊豆沼・内沼

令和 7 年 3 月

北部地方振興事務所栗原地域事務所

目 次

1	地域の概要	1
2	人 口	3
3	産業概要	6
4	農 業	9
5	畜 産	11
6	農業農村整備	13
7	林 業	15
8	商工業	17
9	観 光	20

注意：各項目の数値・割合は、単位未満を四捨五入するなどの処理を行っているため、内訳の計と合計が一致しない場合があります。

1 地域の概要

(1) 概況

栗原地域は、平成17年4月に旧栗原郡の9町1村（築館町・若柳町・栗駒町・高清水町・一迫町・瀬峰町・鶯沢町・金成町・志波姫町・花山村）が広域合併して誕生した「栗原市」をその区域としています。宮城県の北西部に位置し、東西に長い地域となっており、東は登米市、南は大崎市、西は秋田県、北は岩手県に接しています。

栗原市の面積は805.00 km²で、県全体の約11%を占め、県内の市町村の中で最も広がっています。

また、人口は60,518人（令和6年12月末現在 住民基本台帳人口）で、県全体の約3%を占めています。

県内市町村の面積 (単位: km ²)	
順位	面積
1	栗原市 805.00
2	大崎市 796.81
3	仙台市 786.35
4	石巻市 554.55
5	登米市 536.09
県全体 7,282.30	

資料：全国都道府県市区町村別面積調
(国土地理院・令和6年10月1日現在)

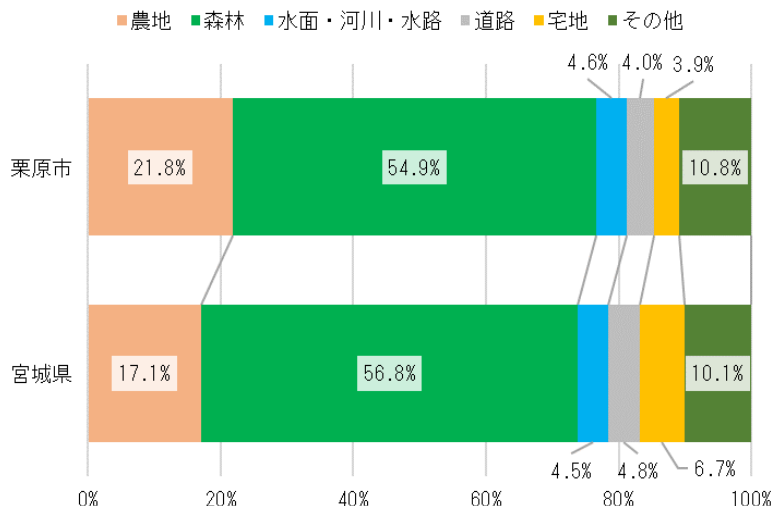


(2) 地勢・土地利用状況

広大かつ豊かな自然環境を有しており、西部にそびえる栗駒山を中心とする栗駒国立公園は、栗駒山頂付近や県内最大の高層湿原である世界谷地等が特別保護地区に指定されており、また、ガンやハクチョウの飛来地として名高い伊豆沼・内沼は、ラムサール条約登録湿地及び国設鳥獣保護区となっています。さらに、御嶽山、一桧山・田代、伊豆沼・内沼は、県自然環境保全地域に指定されています。

また、栗駒山が属する奥羽山脈が西部を縦走しており、その支脈は丘陵地帯を形成し南東に張り出し、伊豆沼・内沼に至っています。この丘陵地帯の間を流れる迫川・二迫川・三迫川の流域や伊豆沼・内沼の周辺に広がる耕土は、本県の主要な穀倉地帯となっており、土地利用は、農地が森林に次いで多く、県全体と比較しても農地の割合が5ポイント程度高い状況にあるなど、地勢の特長を活かし、古くから農業が盛んな地域です。

土地利用状況

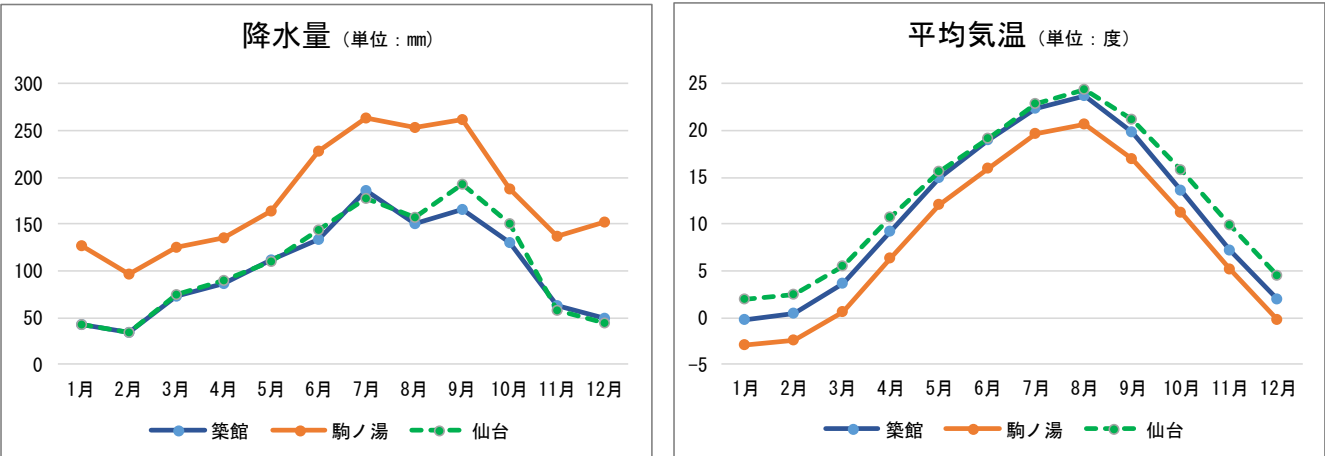


資料：土地利用の現況と施策の概要（令和5年4月1日現在ほか）

(3) 気候

東の平野部（築館）は、年間平均気温が 11.3 度、降水量が約 1,230mm であり、ともに仙台市とほぼ同程度（年間平均気温 12.8 度、降水量約 1,277mm）となっていますが、西の山間部（駒ノ湯）は、平均気温はどの月も仙台市より 4 度程度低く、降水量も、夏季は仙台市の 1.5 倍、積雪が影響する冬季は 3 倍程度の差があります。

山間部（駒ノ湯）は、1・2 月は累計で 2m を超える降雪があり、残雪は初夏ごろまで見られます。



	(単位: cm)					
	1月	2月	3月	4月	11月	12月
降雪の深さ合計 (駒ノ湯)	268	207	169	37	36	208

資料：気象庁「過去の気象データ」（1991～2020 年平均）

(4) 交通

高速交通網は、JR 東北新幹線（くりこま高原駅）、東北自動車道（築館及び若柳金成インターチェンジ）、みやぎ県北高速幹線道路（国道 4 号築館バイパス付近の起点及び築館東、若柳南並びに伊豆沼インターチェンジ）があり、東北自動車道を利用した高速バスも、仙台市との間に 2 路線が運行されています。また、これらと並行して JR 東北本線（瀬峰駅、有壁駅）があります。

地域内には国道 4 号、398 号、457 号を中心として、県道、市道、広域農道などが縦横に走り自動車交通を支えています。

地域内の交通は、栗原市と市外を結ぶ広域路線（路線バス）、市内各地区と鉄道・バスの乗継場所等を連携する市内連携路線（同）及び花山地区内を運行する地域内路線（乗合デマンド交通）が運行されており、買い物や通学、通院など市民の足となっています。

2 人口

- 栗原地域の人口は、自然減及び社会減*が続いていることにより、10年間で1万人以上減少しており、人口減少が加速しています。また、世帯数は横ばい傾向にあるものの、人口及び世帯数は、県内7広域圏の中で最も少なくなっています。
- 15歳未満の人口構成率は15年で2.2ポイント減少、一方65歳以上の人口は約9.8ポイント増加し、少子高齢化が進み、また高齢化率は県内の7広域圏の中で最も高くなっています。

※自然減…生まれる方より亡くなる方が多い、社会減…転入より転出が多い

(1) 管内の状況

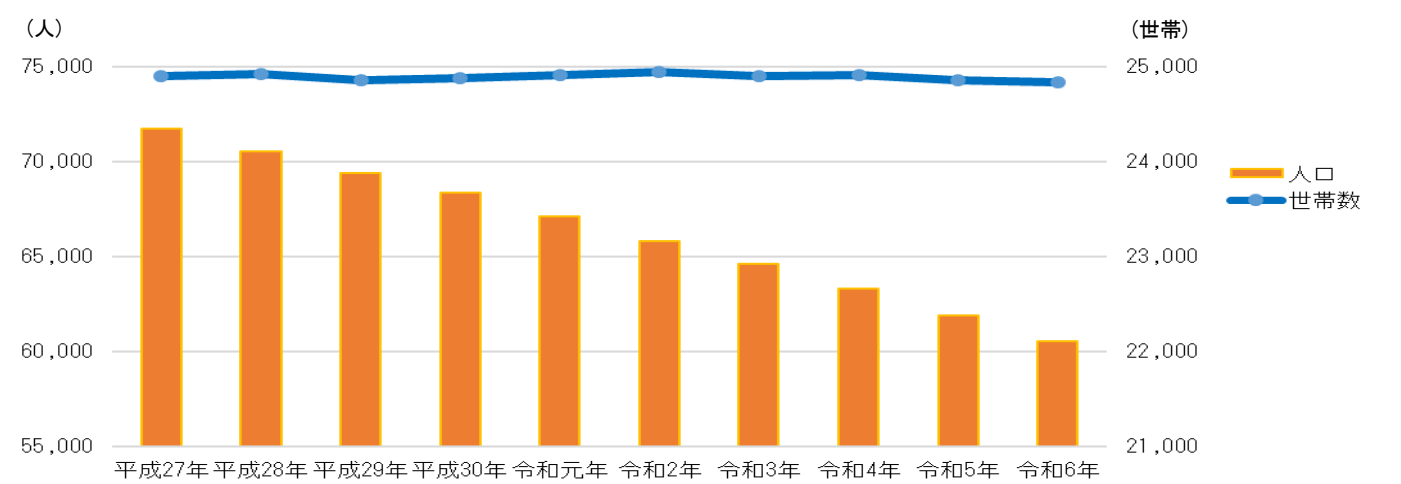
① 人口・世帯数推移

(単位：人)										
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
栗原市	71,748	70,530	69,382	68,328	67,117	65,811	64,621	63,299	61,910	60,518
宮城県	2,324,469	2,319,438	2,312,085	2,303,098	2,292,386	2,282,107	2,268,356	2,257,480	2,242,394	2,224,983
構成比	3.1%	3.0%	3.0%	3.0%	2.9%	2.9%	2.8%	2.8%	2.8%	2.7%

資料：住民基本台帳人口及び世帯数（月報）（各年12月末現在）

(単位：世帯)										
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
栗原市	24,904	24,918	24,855	24,881	24,905	24,939	24,903	24,914	24,859	24,837
宮城県	971,643	980,849	989,300	997,384	1,006,676	1,016,613	1,023,972	1,035,950	1,044,641	1,052,123
構成比	2.6%	2.5%	2.5%	2.5%	2.5%	2.5%	2.4%	2.4%	2.4%	2.4%

資料：住民基本台帳人口及び世帯数（月報）（各年12月末現在）



(参考) 旧町村別人口推移 (単位：人)

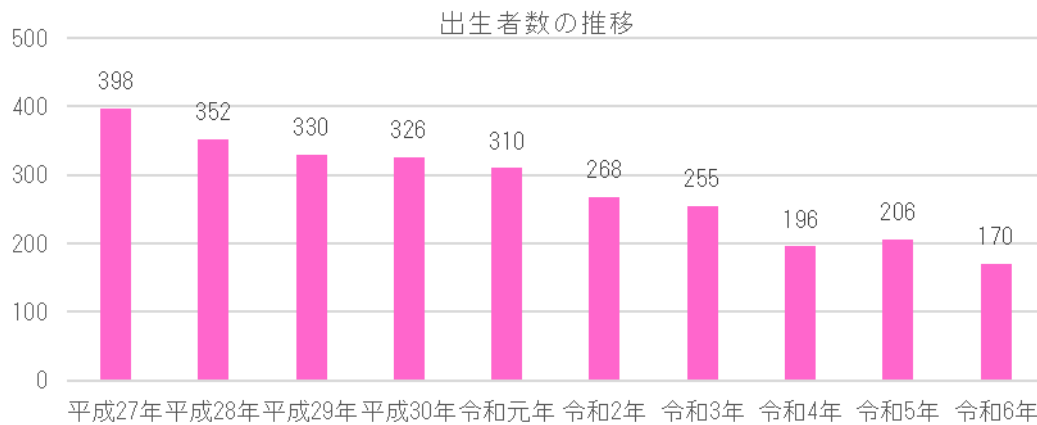
	旧築館町	旧若柳町	旧栗駒町	旧高清水町	旧一迫町	旧瀬峰町	旧鶯沢町	旧金成町	旧志波姫町	旧花山村	計
平成12年	16,422	15,145	15,010	4,702	9,969	5,738	3,445	8,750	7,639	1,732	88,552
平成17年	15,271	13,863	13,135	4,192	8,800	5,300	2,973	7,927	7,317	1,470	80,248
平成22年	14,541	13,047	12,123	3,976	8,035	4,884	2,719	7,371	6,980	1,256	74,932
平成27年	14,044	12,266	10,954	3,648	7,375	4,478	2,436	6,883	6,751	1,071	69,906
令和2年	13,180	11,434	9,859	3,484	6,736	4,145	2,079	6,284	6,536	900	64,637
構成比 (令和2年)	20.4%	17.7%	15.3%	5.4%	10.4%	6.4%	3.2%	9.7%	10.1%	1.4%	100.0%

資料：国勢調査（各年10月1日現在）

② 自然増減・社会増減推移

	自然増減数			社会増減数		
	出生者数	死亡者数	増減	転入者数	転出者数	増減
令和2年	268	1,210	▲ 942	1,244	1,608	▲ 364
令和3年	255	1,176	▲ 921	1,211	1,480	▲ 269
令和4年	196	1,320	▲ 1,124	1,225	1,423	▲ 198
令和5年	206	1,343	▲ 1,137	1,266	1,518	▲ 252
令和6年	170	1,322	▲ 1,152	1,210	1,450	▲ 240

資料：住民基本台帳人口及び世帯数（月報）（各年12月末現在）



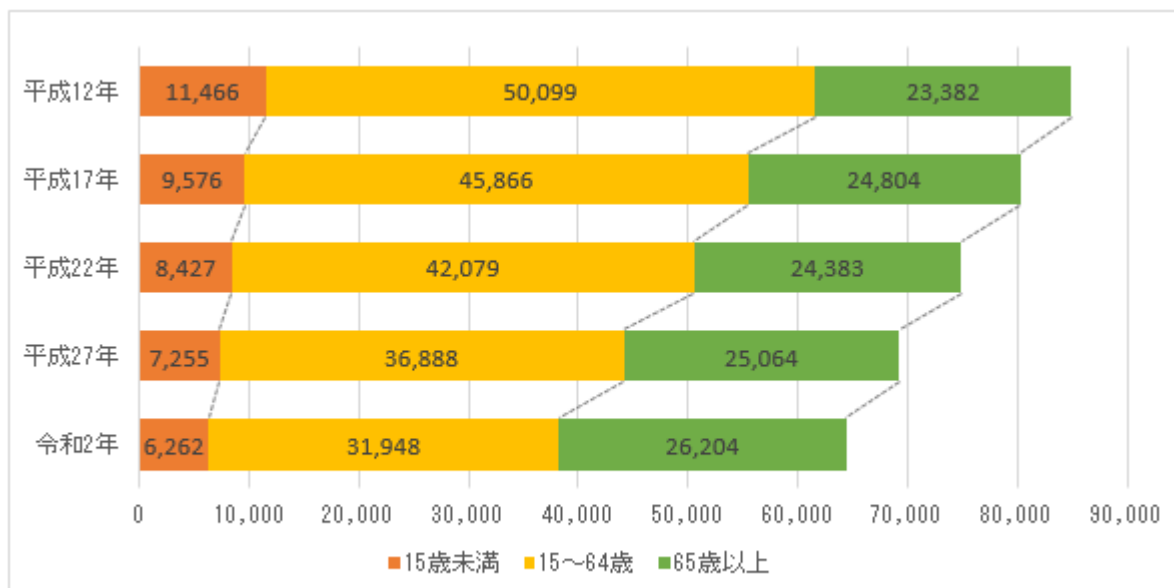
資料：住民基本台帳及び世帯数（月報、各年12月末現在）

③ 年齢別人口構成推移

栗原市	15歳未満		15～64歳		65歳以上		総数
	人口	割合	人口	割合	人口	割合	
平成12年	11,466	13.5%	50,099	59.0%	23,382	27.5%	84,947
平成17年	9,576	11.9%	45,866	57.2%	24,804	30.9%	80,248
平成22年	8,427	11.3%	42,079	56.2%	24,383	32.6%	74,932
平成27年	7,255	10.5%	36,888	53.3%	25,064	36.2%	69,906
令和2年	6,262	9.7%	31,948	49.6%	26,204	40.7%	64,637

資料：国勢調査（各年10月1日現在）

※総数には「不詳」を含むため、内訳を合計しても総数に一致しない。



資料：国勢調査（各年10月1日現在、不詳を除く）

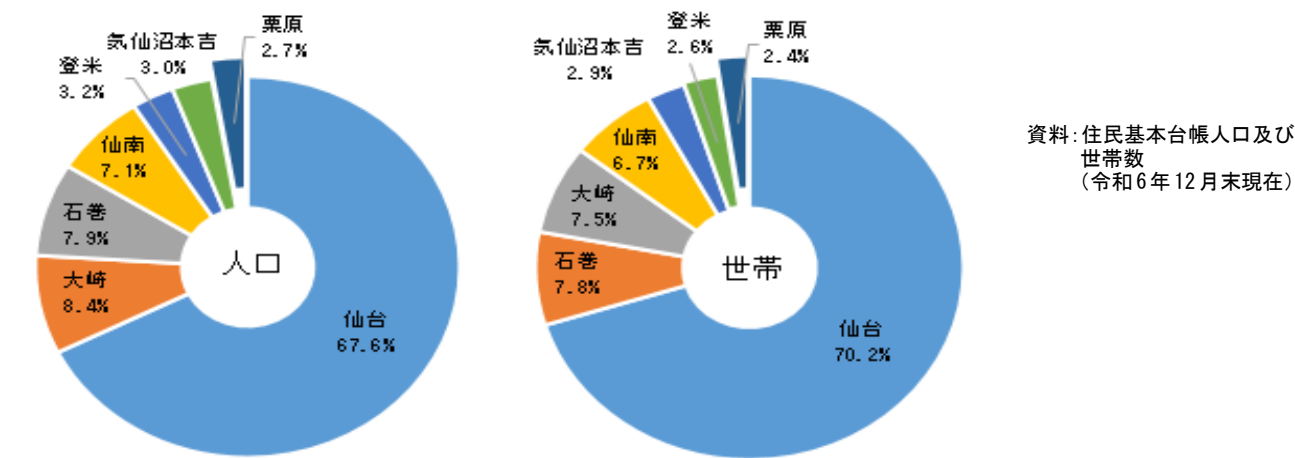
④ 児童・生徒数

	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年	合計
小学校	322	326	338	351	384	414	2,135
中学校	404	406	403				1,213
高等学校	357	347	340				1,044

資料：令和6年度学校基本調査（令和6年5月1日現在）

(2) 広域圏の状況

① 広域圏別人口・世帯比較



② 広域圏別年齢別人口構成

圏域名	15歳未満		15～64歳		65歳以上		総数
	人口	割合	人口	割合	人口	割合	
仙台	187,388	12.5%	933,693	62.3%	377,240	25.2%	1,540,389
大崎	22,234	11.4%	108,518	55.8%	63,561	32.7%	195,353
石巻	19,920	10.9%	103,223	56.2%	60,427	32.9%	185,679
仙南	17,741	10.7%	91,040	55.1%	56,452	34.2%	166,529
登米	8,332	11.0%	40,399	53.4%	26,956	35.6%	76,037
気仙沼本吉	6,551	9.0%	38,024	52.3%	28,144	38.7%	73,372
栗原	6,262	9.7%	31,948	49.6%	26,204	40.7%	64,637

資料: 国勢調査 (令和2年10月1日現在)
※総数には「不詳」を含むため、内訳を合計しても総数に一致しない。

3 産業概要

- 就業者数については、人口減少に伴い減少傾向にあり、産業別就業者数は、第1次・第2次産業※の割合が県全体と比べて高く、特に第1次産業は14.8%と県全体の3.7倍となっています。
- 総生産額はここ数年ほぼ横ばいで推移しており、中でも製造業の占める割合が20%前後で最も高くなっています。
一方で、圏域別の割合でみると、当管内が最も低くなっています。
産業別では、県全体と比較して第1次・第2次産業の割合が高く、第1次産業では、農業は稲作、林業はきのこ類などの特用林産物の生産が盛んであり、第2次産業でも食料品の製造が多いなど、「食」関連産業が中心となっています。
- 雇用状況については、有効求人倍率は人口減少や相次ぐ企業進出等により労働力の需要が供給を上回り、平成28年度以降、県平均を上回る水準で推移しています。
令和4年度以降は、原材料・燃料価格の高騰を受けた生産コスト増大等を背景に、企業が新規求人を控える動きもみられたことから、県平均との差は縮まり、令和6年12月は県平均より若干高い1.50となっています。
- 新規高卒者の就職については、内定率は例年ほぼ100%で推移し就職希望はおおむね叶えられている状況

※第1次…農林水産業、第2次…鉱業、製造業、建設業、第3次…電気・ガス・水道業、卸売・小売業、運輸・郵便業などその他の産業

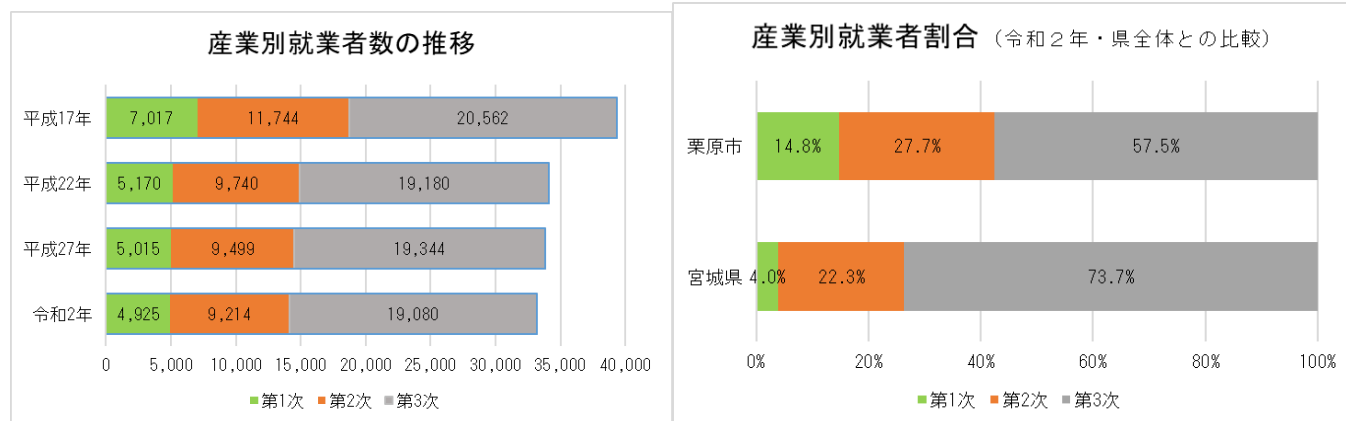
■ 就業者・生産額等

(1) 産業別就業者数の推移及び構成割合

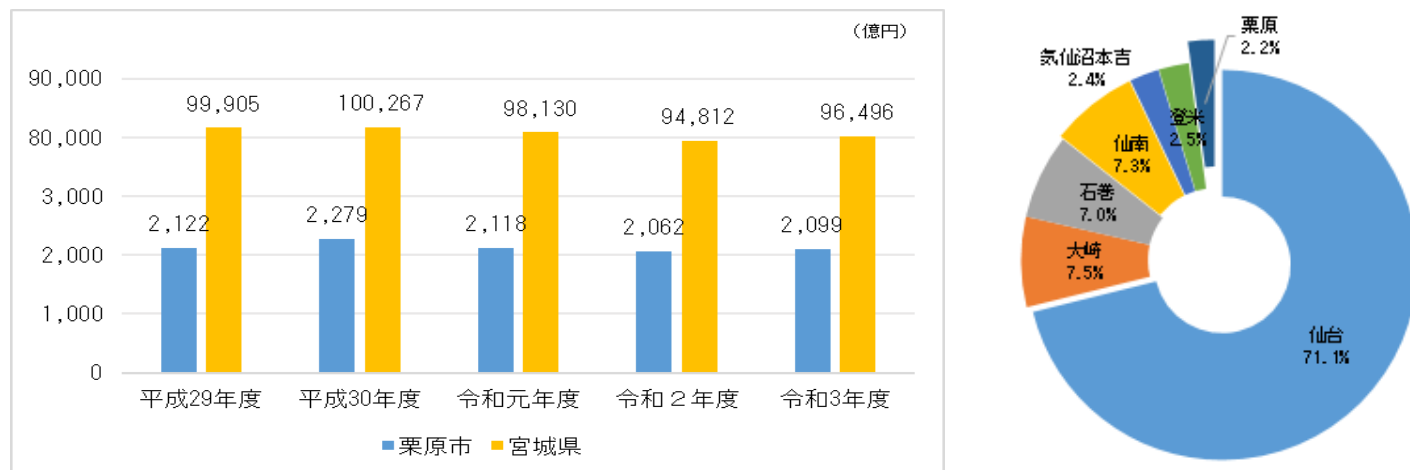
(単位：人)

	総数	内訳		
		第1次	第2次	第3次
平成17年	39,323	7,017	11,744	20,562
平成22年	34,090	5,170	9,740	19,180
平成27年	33,858	5,015	9,499	19,344
令和2年	33,219	4,925	9,214	19,080

資料：国勢調査（各年10月1日現在） ※分類不能を除く

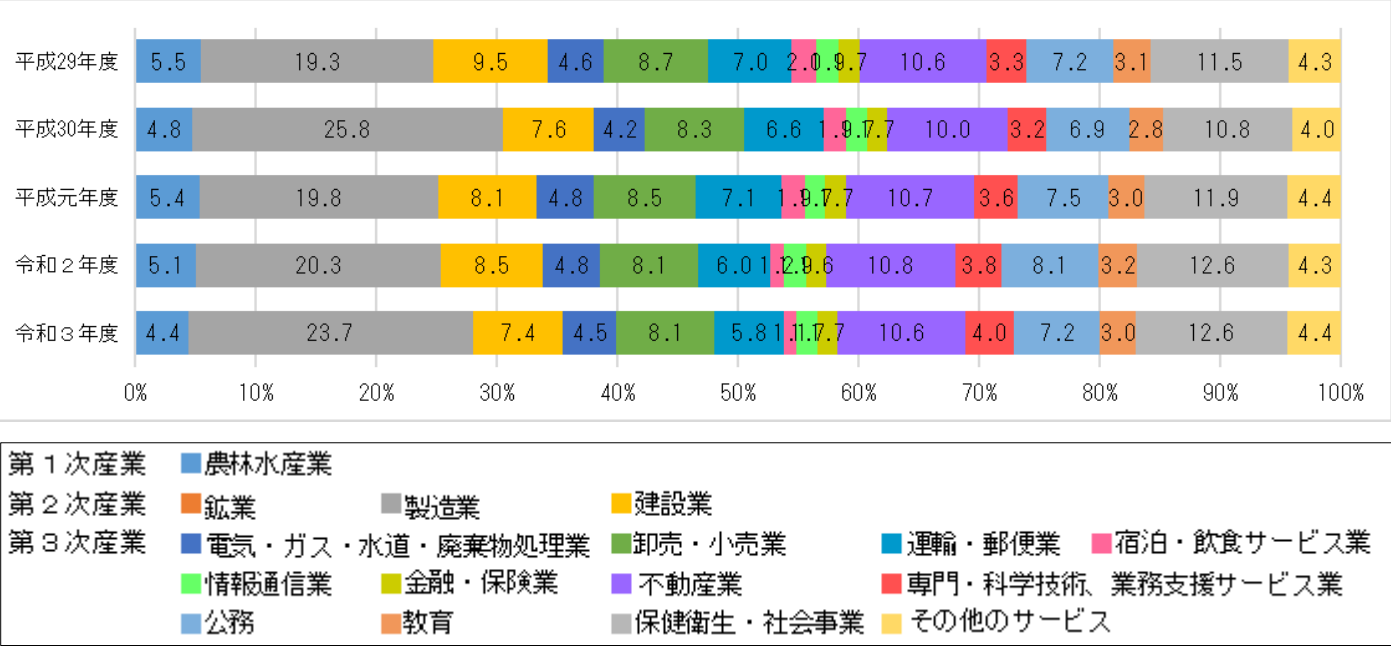


(2) 総生産額の推移と圏域別比較（令和3年度）

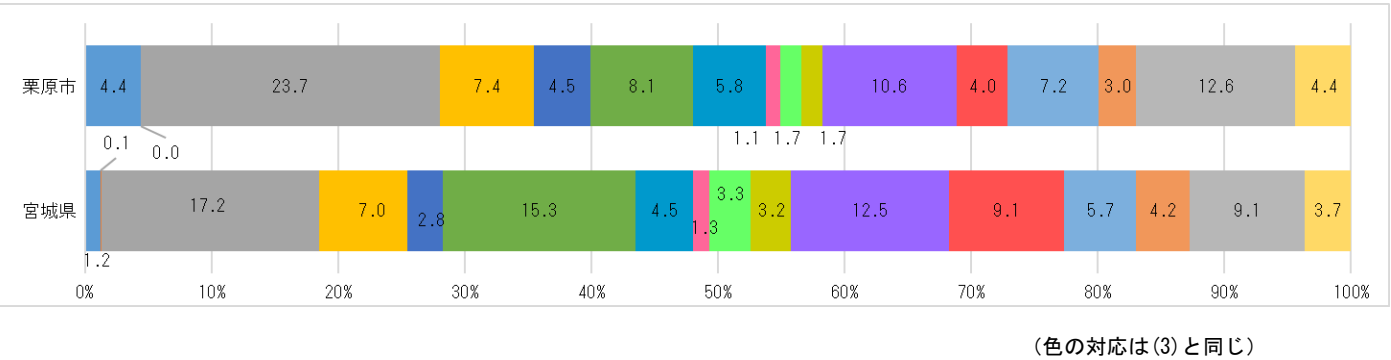


資料：宮城県市町村民経済計算（以下同）

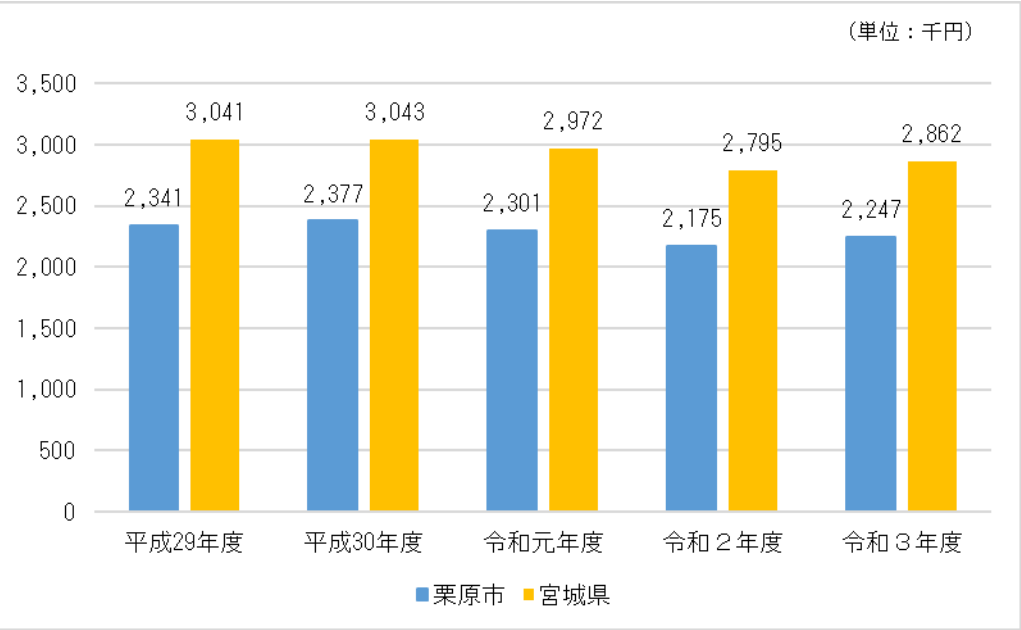
(3) 総生産額に係る経済活動別構成比の推移



(4) 経済活動別構成比に係る県全体との比較（令和3年度）

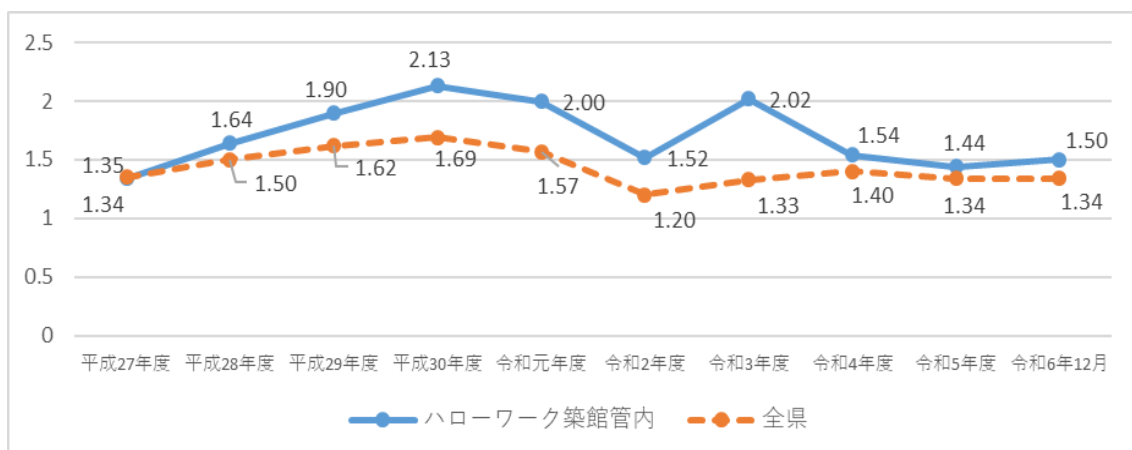


(5) 1人当たりの市民・県民所得の推移

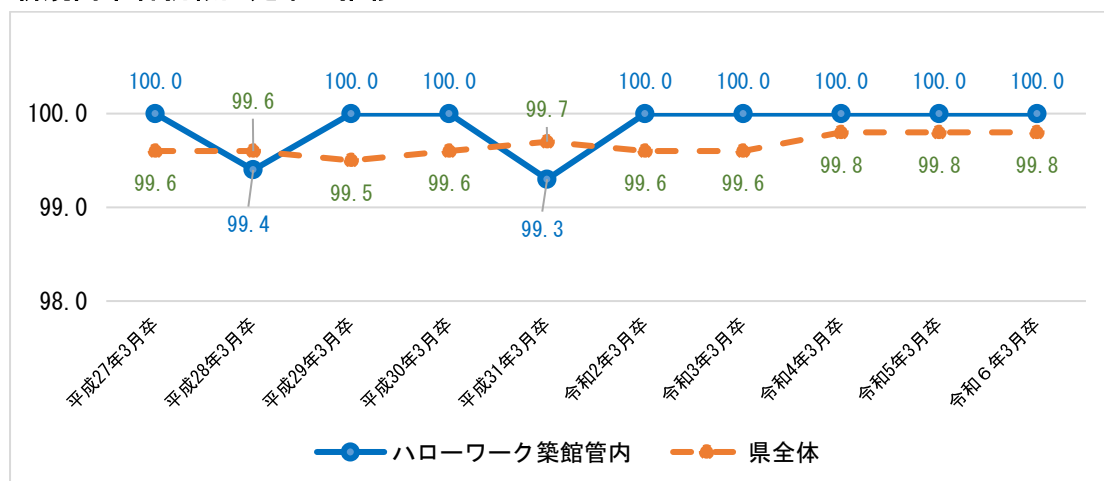


■雇用状況等

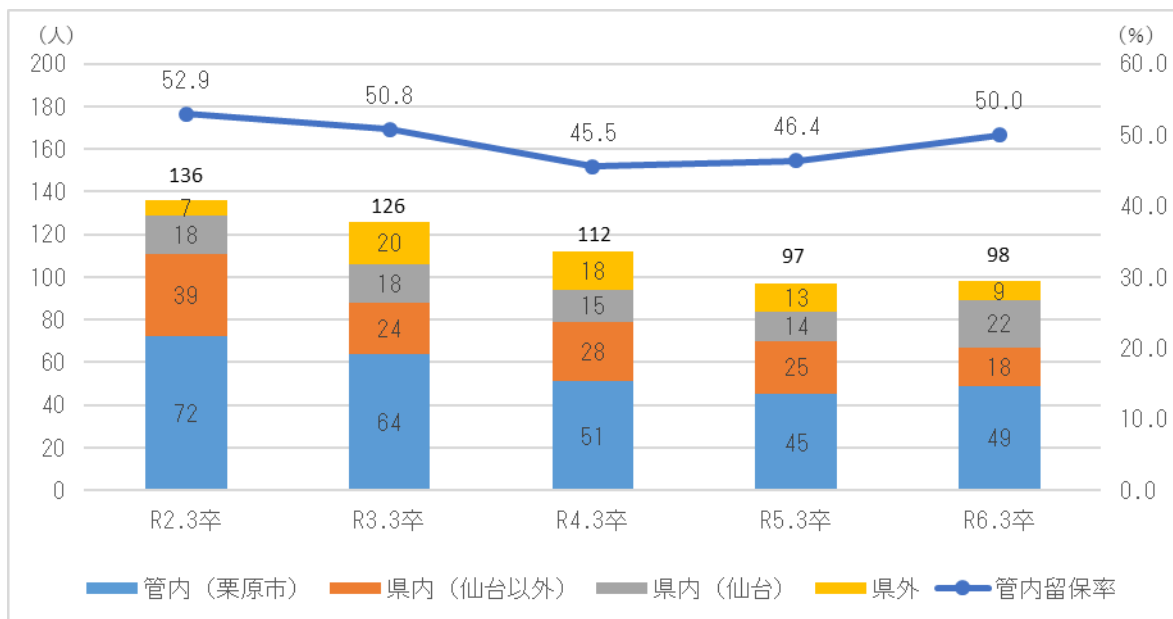
(1) 有効求人倍率の推移



(2) 新規高卒者就職内定率の推移



(3) 新規高卒者の地域別就職状況の推移



4 農業

- 総農家数は、令和2年は5,498戸で、平成22年の8,267戸から10年間で約33%減少しました。
- 県内における栗原地域の状況を見ると、農家数等の市町村別順位では、総農家数、販売農家数及び農業就業人口で県内第2位となっています。
- 農業産出額は県内市町村中第3位で12%を占めており、部門別でも水稻が15%、畜産が13%を占めています。
- 令和4年の水稻の作付面積は9,240ha(県全体約15%)、大豆は891ha(県全体約8%)となっています。
- 近年、生産が定着してきたズッキーニは、令和4年で8.4ha作付けされ、県内第1位の産地となっています。また、パプリカ栽培は、全国有数の生産規模となっています。
- 直売所等の件数は横ばい、アグリビジネス経営体数は新型コロナウイルス感染症の影響等により減少したものの令和5年は、コロナ禍以前の水準となっています。

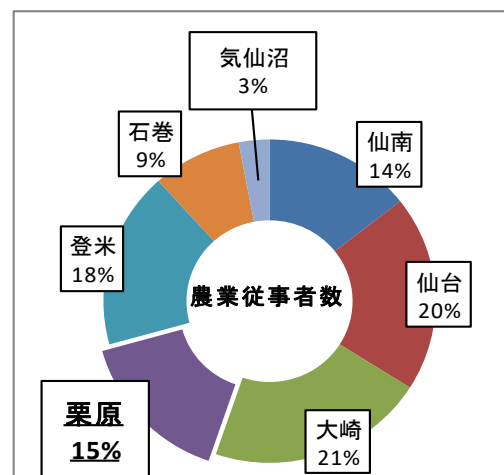
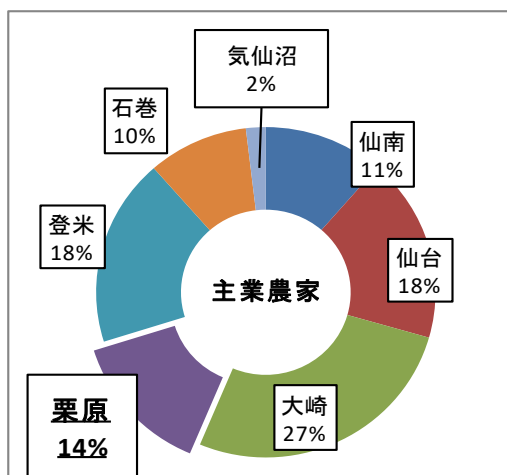
(1) 農家戸数等

(単位：戸、人、歳)

	総農家	自給的農家	販売農家				農業就業人口 (H27まで) 農業従事者数 (R2)	基幹的農業従事者の 平均年齢
			計	主業農家	準主業農家	副業的農家		
平成12年	10,476	1,327	9,149	1,500	3,737	3,912		62.6
平成17年	9,519	1,368	8,151	1,294	3,040	3,817		64.3
平成22年	8,267	1,418	6,849	1,085	2,939	2,825	11,176	66.4
平成27年	6,670	1,324	5,346	929	1,678	2,739	7,953	68.1
令和2年	5,498	1,181	4,317	719	879	2,719	11,602	69.1
同上構成比	100.0%	21.5%	78.5%	13.1%	16.0%	49.5%		
令和2年 宮城県	41,509	12,877	28,714	5,204	5,100	18,410	75,069	67.0
同上構成比	79.3%	24.6%	54.9%	9.9%	9.7%	35.2%		

資料：農林業センサス

自給的農家：経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家
 販売農家：経営耕作面積が30a以上又は農産物販売金額が50万円以上の農家
 主業農家：農業所得が主（農家所得の50%以上が農業所得）で、65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家
 準主業農家：農外所得が主で、65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家
 副業的農家：主業農家、準主業農家以外の農家
 農業就業人口：満15歳以上の農家世帯員のうちで、農業にだけ従事した者と農業以外に従事していても農業従事日数の方が多い者の合計
 農業従事者：15歳以上の世帯員のうち自営農業に従事した者
 基幹的農業従事者：農業に主として従事した世帯員（農業就業人口）のうち、調査期日前1年間の普段の主な状態が「仕事に従事していた者」のこと

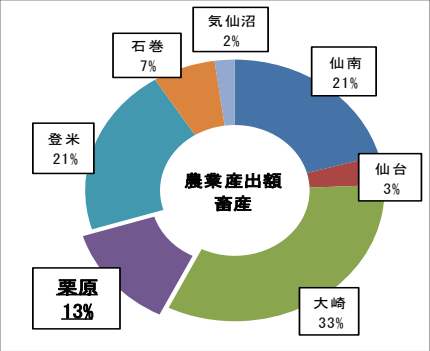
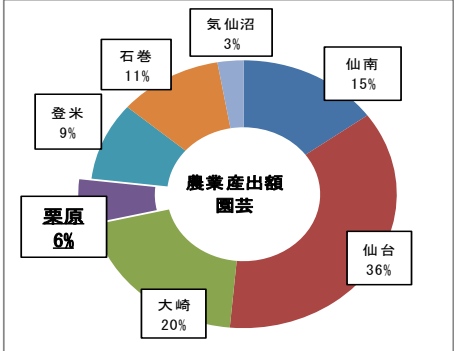
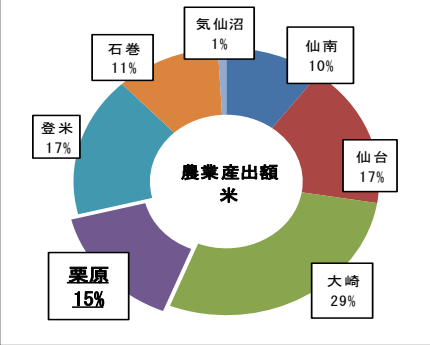
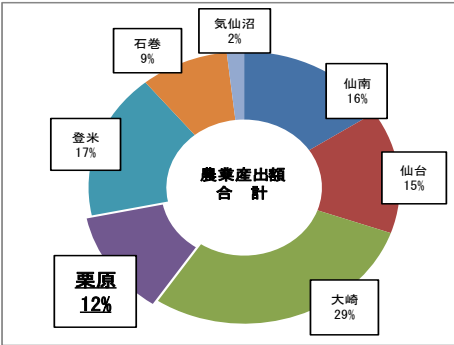


(2) 広域圏別農業産出額

(単位：千万円)

	合 計	米	園 芸	畜 産
仙南	2,646	645	453	1,548
仙台	2,466	1,093	1,103	270
大崎	4,859	1,792	602	2,465
栗原	2,079	948	167	964
登米	2,914	1,070	285	1,559
石巻	1,537	698	332	507
気仙沼	301	56	83	162

資料：農林水産省 令和4年市町村別農業産出額（推計）



(1) 主要作物作付面積

(単位：ha)

	水稻	kg/10a	大豆	kg/10a	そば	パプリカ	ズッキーニ
平成30年	9,820	545	915	127	36	7.6	7.9
令和元年	9,900	553	902	121	34	7.4	8.0
令和2年	9,870	544	854	134	32	8.4	8.0
令和3年	9,650	541	817	182	32	7.6	8.4
令和4年	9,240	532	891	117	34	8.3	8.4
令和4年 宮城県	60,800	537	11,900	133	629	12.0	10.0
対県比	15.2%	-	7.5%	-	5.4%	-	-

資料：宮城の農作物統計・宮城農林水産統計年報

注：パプリカ、ズッキーニは、北部地方振興事務所栗原地域事務所農業振興課調べ。
注：パプリカ、ズッキーニの県計は、農林水産省「令和4年産地域特産野菜生産状況調査(隔年調査)」の数値。

(4) 農産物直売所、アグリビジネス経営体等の状況

①農産物直売所等

(単位：件)

	直売 (固定店舗・ 対面販売)	農家レストラン	農家民宿	合計
平成29年	19	9	2	30
平成30年	19	9	2	30
令和元年	18	9	2	29
令和2年	18	7	2	27
令和3年	18	7	2	27
令和4年	19	7	2	28
令和5年	19	5	3	27

資料：宮城県農政部農山漁村なりわい課調べ

注：「アグリビジネス経営体」とは、年間販売金額1億円以上の経営体を指す。

②アグリビジネス経営体数

(単位：件)

	アグリビジネス 経営体数
平成29年	19
平成30年	15
令和元年	14
令和2年	12
令和3年	13
令和4年	13
令和5年	16

資料：宮城県農政部農業振興課調べ

5 畜産

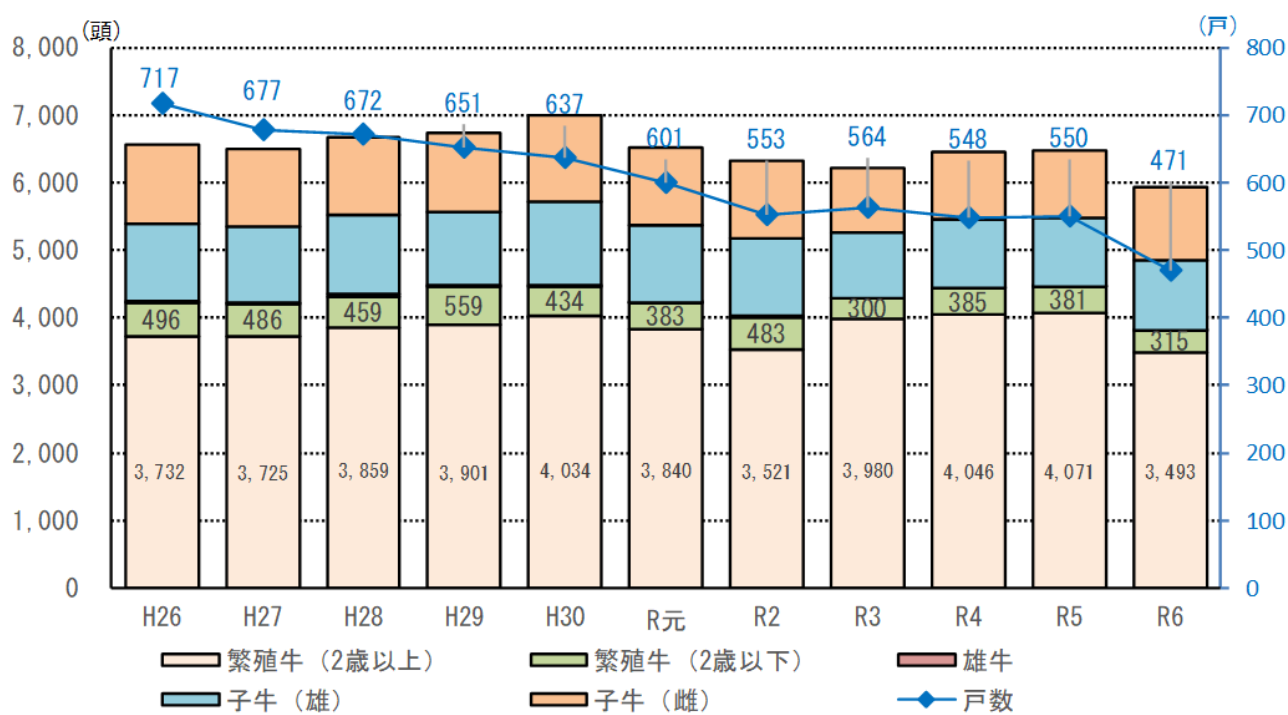
- 畜産においては担い手の高齢化や後継者不足、生産環境の変化により飼養戸数は減少傾向にあり、栗原地域においても過去 10 年間で乳用牛及び肉用牛の飼養戸数は約 4 割、養豚は約 3 割、養鶏は約 2 割減少しました。
- 令和 6 年 2 月 1 日現在、栗原地域で肉用子牛を生産する繁殖経営は 471 戸で、繁殖雌牛 3,808 頭が飼養されており、みやぎ総合家畜市場へ上場される子牛頭数は、令和 5 年度 2,636 頭で県内の約 2 割を占め、上場子牛の評価は高く、常に県平均価格を上回って推移しています。
- 養豚経営及び養鶏経営は大規模化が進み、10 年前と比較すると、豚の頭数は約 5 割増加し約 42 千頭、鶏の羽数は約 6 割増加し約 1,015 千羽となっており、それぞれ県内の 21.0%（養豚）と 16.0%（養鶏）を占めています。

(1) 主要な家畜の飼養戸数及び頭羽数

(単位：戸、頭・羽)								
	乳用牛		肉用牛		豚		鶏	
	飼養戸数	頭数	飼養戸数	頭数	飼養戸数	頭数	飼養戸数	羽数
H26	59	1,867	825	10,291	17	27,568	10	607,700
R元	50	1,684	656	9,195	15	36,536	9	640,300
R2	45	1,562	640	9,027	15	39,338	9	691,826
R3	42	1,484	600	9,127	15	43,885	8	736,075
R4	38	1,421	584	9,199	15	40,831	8	858,532
R5	37	1,401	585	9,184	14	40,822	8	985,696
R6	32	1,356	504	8,411	12	41,707	8	1,015,008
R6-H26	▲ 27	▲ 511	▲ 321	▲ 1,880	▲ 5	14,139	▲ 2	407,308
	▲45.8%	▲27.4%	▲38.9%	▲18.3%	▲29.4%	51.3%	▲20.0%	67.0%
R6 宮城県	333	16,189	2,335	78,635	118	198,522	122	6,356,142
対県 構成比	9.6%	8.4%	21.6%	10.7%	10.2%	21.0%	6.6%	16.0%

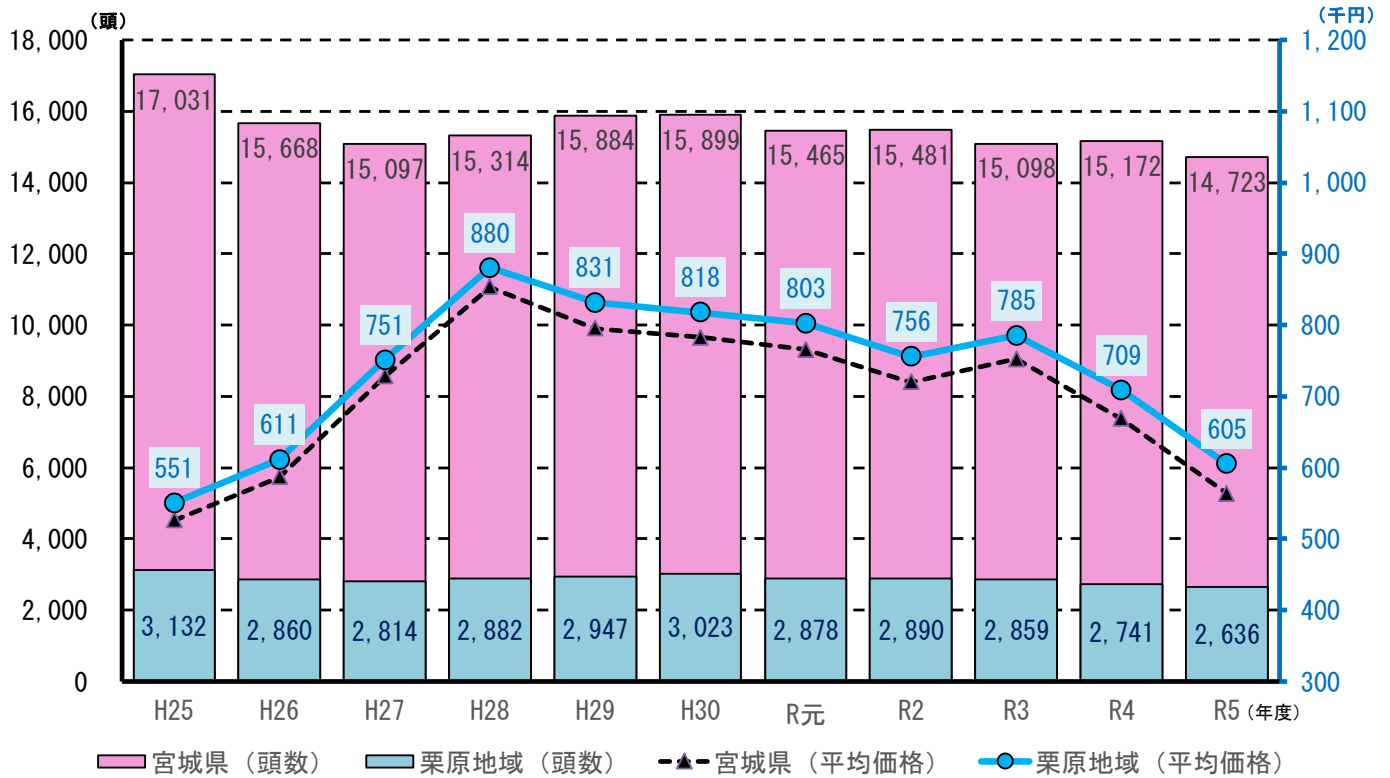
資料：飼養衛生管理基準の定期報告（令和6年2月1日）

(2) 肉用牛繁殖経営の飼養戸数及び頭数の推移

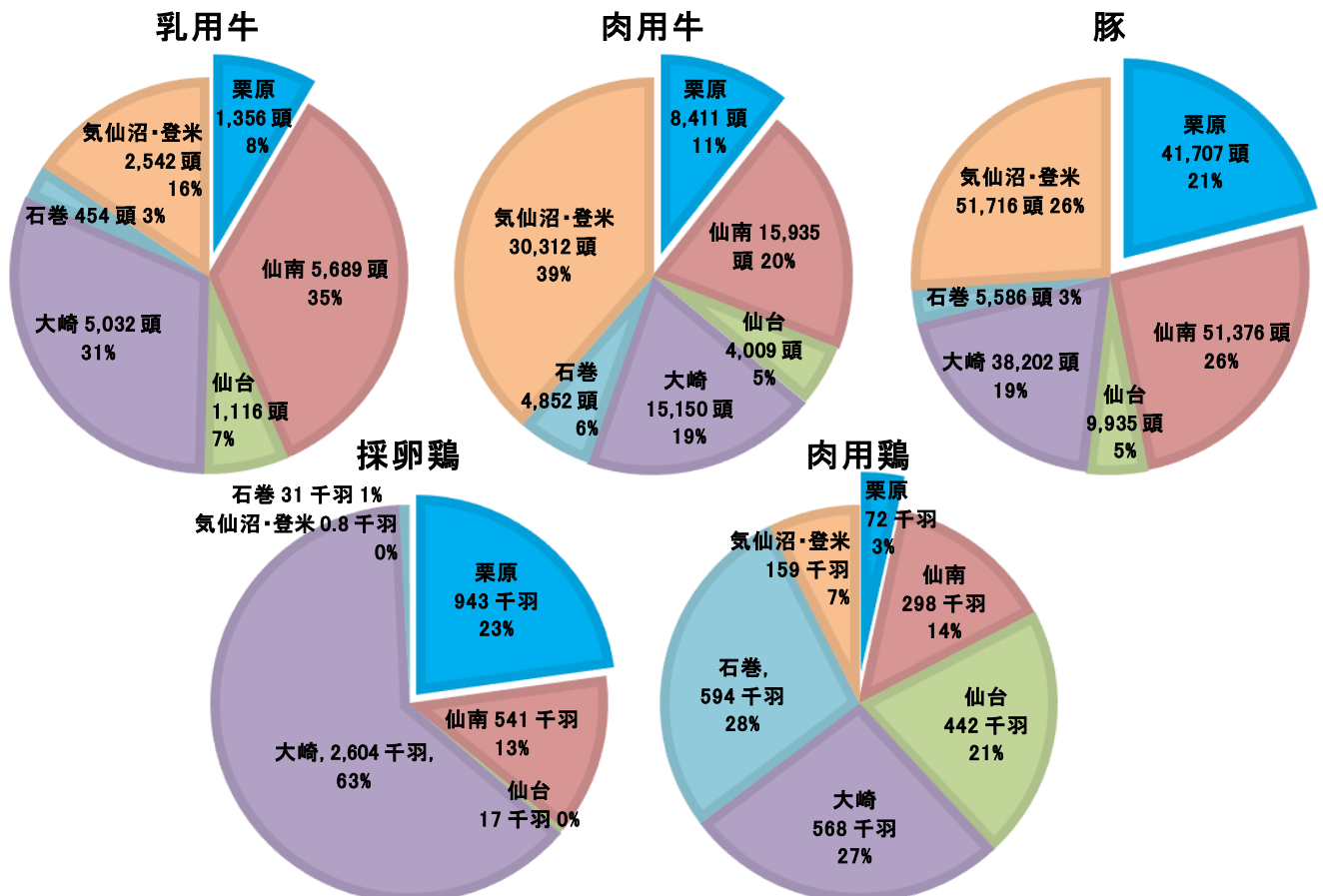


家畜改良関係飼養頭羽数調査（令和6年2月1日現在）

(3) 栗原地域及び宮城県の子牛市場上場頭数及び1頭あたり平均価格の推移



(4) 地域別家畜頭羽数及び構成比



資料：飼養衛生管理基準の定期報告（令和6年2月1日）

6 農業農村整備

- 栗原管内の水田の整備状況は、令和5年度末において水田面積 16,100ha のうち 9,889ha が整備済みであり、水田整備率は県平均 73%に対して 61%となっています。
- 農地整備事業実施地区の令和5年度における農地集積率は管内別トップの 74.2%で県平均を 3.0 ポイント上回っています。
- 農家や地域住民の共同作業による農村環境保全活動は、農振農用地面積 17,260ha のうち 9,420ha で取り組まれており、カバー率は県平均 67%に対して 55%となっています。

(1) 管内別水田整備状況

(単位：ha、%)

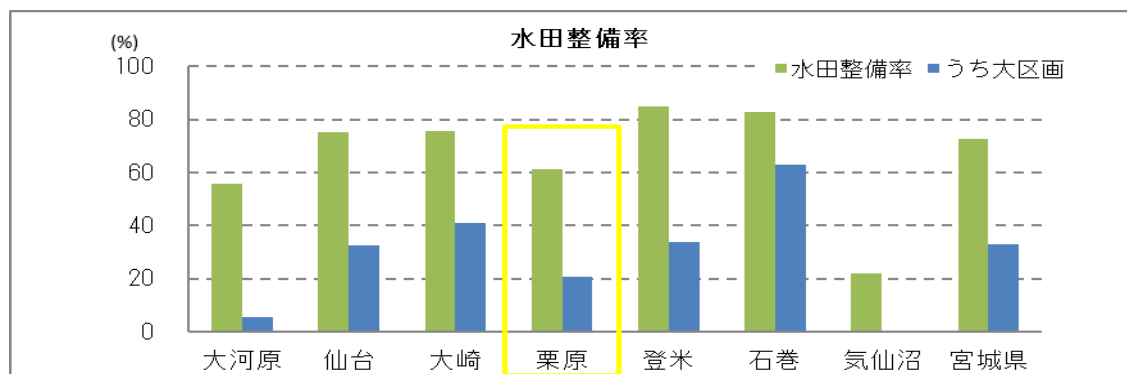
管内名	水田面積	水田整備状況			
		整備済み面積 (20a区画以上)	整備率	うち大区画(50a区画以上)	
				整備済み面積	整備率
大河原	11,890	6,640	56	642	5
仙台	20,849	15,661	75	6,810	33
大崎	31,940	24,136	76	13,056	41
栗原	16,100	9,889	61	3,331	21
登米	16,400	13,886	85	5,528	34
石巻	11,405	9,437	83	7,177	63
気仙沼	1,693	372	22	4	0
宮城県	110,277	80,021	73	36,548	33

資料：宮城県農政部農村振興課（令和5年度実績）

注：東日本大震災津波被災地域の農地転用面積等が一部未整理であり、整備済み面積は参考値扱いである。

注：水田面積は平成22年の数値（震災前）である。

注：整数値表示としているため、必ずしも計は一致しない。



(2) 管内別農地整備実施地区農地集積状況

(単位：地区、ha、%)

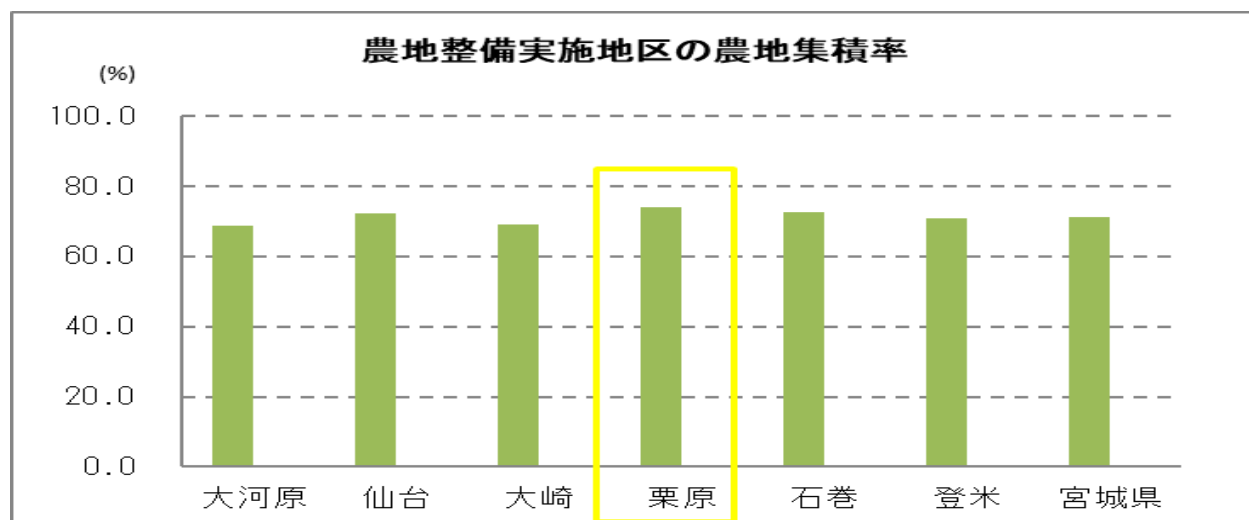
管内名	地区数	農地流動化計画 面積	農地集積状況	
			集積面積	集積率
大河原	16	965.2	663.9	68.8
仙台	23	7,034.5	5,075.7	72.2
大崎	54	11,813.9	8,164.7	69.1
栗原	32	3,731.7	2,768.2	74.2
石巻	30	5,506.8	4,004.2	72.7
登米	17	2,605.4	1,848.0	70.9
宮城県	172	31,657.5	22,524.7	71.2

資料：宮城県農政部農村整備課（令和5年度）

注：津波被災地区は集計対象外（地区数のみ計上）。

注：地域の中心となる農業経営体に農地の利用を集約すること。農地の売買や借地、農作業の受委託等によって経営面積を拡大し、経営の安定を図ることがねらい。

注：気仙沼管内は農業経営高度化支援事業を実施していないため対象外。



(3) 管内別農村環境保全活動取組状況

(単位：組織、ha、%)

管内名	農振農用地面積	農村環境保全活動の取組み状況						
		多面的機能支払交付金事業			中山間地域等直接支払交付金事業			カバー率合計
		組織数	認定農用地面積	カバー率	協定数	交付面積	カバー率	
大河原	15,019	144	6,492	43	47	960	6	50
仙台	19,761	186	15,316	78	13	231	1	79
大崎	32,178	252	22,287	69	20	137	0	70
栗原	17,260	139	8,901	52	68	519	3	55
登米	15,904	150	12,187	77	1	12	0	77
石巻	12,376	47	9,774	79	0	0	0	79
気仙沼	3,964	76	668	17	67	376	9	26
宮城県	116,462	989	75,625	65	216	2,235	2	67

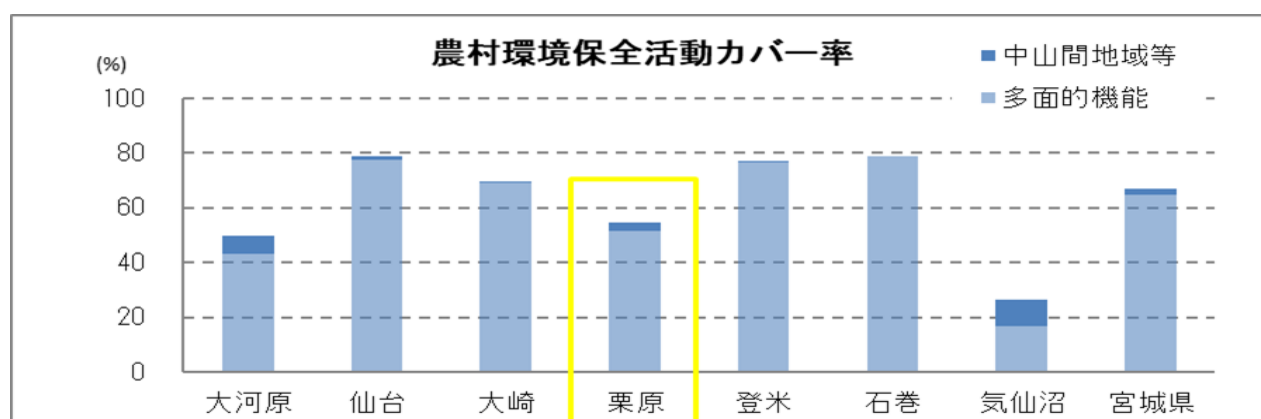
資料：宮城県農政部農山漁村なりわい課（令和5年度）

注：農用地面積は、東北農政局農村計画部農村振興課発行（平成25年3月31日）の農業振興地域整備計画総覧の農用地区域の現況地目別面積の農用地面積

注：多面的機能支払交付金事業とは、地域共同による農地・農業用水等の資源の保全管理と農村環境の保全向上の取組みに対する支援事業である。

注：中山間地域等直接支払交付金事業とは、農業生産条件が不利な中山間地域等における農業生産の維持を図りながら、多面的機能を確保する取組みに対する支援事業である。

注：整数値表示としているため、必ずしも計は一致しない。



7 林業

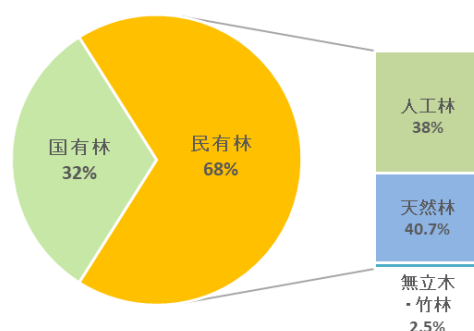
- 栗原地域は県内有数の森林地域です。森林面積は44,174ha（森林率 54.9%）で、うち民有林は30,032haとなっており、その56.1%を占める人工林の多くは収穫可能な8 齢級以上（36 年生以上）で、利用可能な資源が充実しています。
- 間伐などの森林整備は、毎年県平均を上回る実績となっており、施業の集約化の効果が現れています。
- 森林病虫害等被害は、松くい虫は減少傾向にあるものの、令和元年度からナラ枯れ被害が発生しており、被害木の早期発見や広葉樹の若返りなどの対策を推進する必要があります。
- 特用林産物は、「生しいたけ」及び「なめこ」が県内有数の生産地となっています。
- 有害鳥獣許可捕獲等は、捕獲頭数が年々増加傾向にあり、特に、ツキノワグマは出没件数・捕獲件数とも令和5年度において急激に増加しました。
- 山地災害危険地区は、災害発生の危険度が高いA地区を中心に治山対策を進めており、その着手率は地域全体で74.6%となっています。

(1) 森林面積

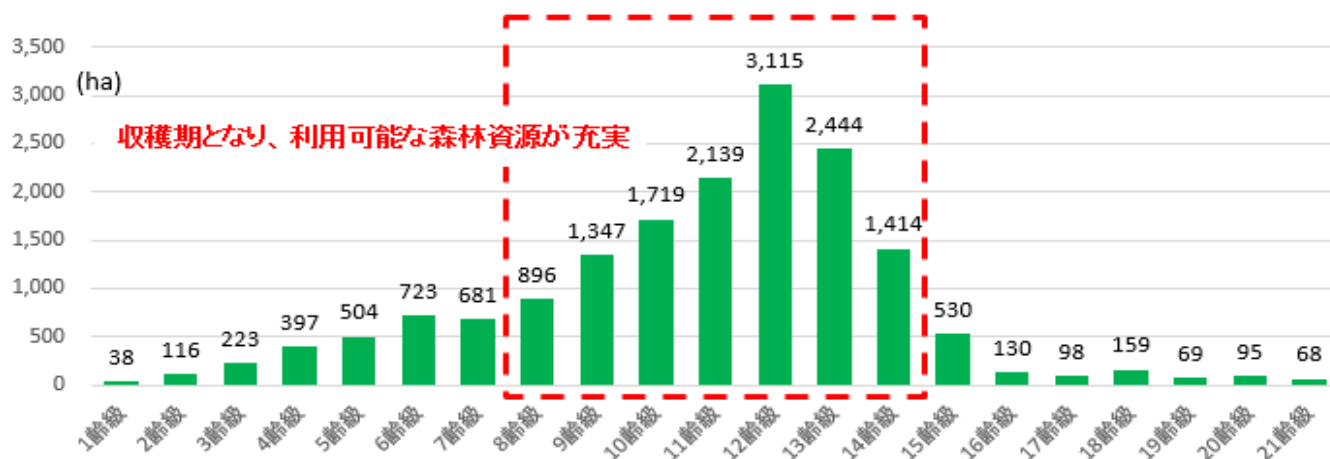
順位	森林面積(ha)		民有林面積(ha)		民有人工林面積(ha)		民有人工林材積(千m3)	
1	仙台市	44,960	栗原市	30,032	栗原市	16,862	大崎市	4,954
2	栗原市	44,174	仙台市	25,414	大崎市	13,785	栗原市	4,700
3	大崎市	42,725	大崎市	23,895	石巻市	13,655	登米市	4,650
4	加美町	33,588	石巻市	22,777	登米市	13,275	気仙沼市	4,347
5	石巻市	30,845	気仙沼市	19,391	気仙沼市	12,314	石巻市	4,275

資料：令和5年度版 みやぎの森林・林業のすがた（令和4年3月31日現在）

所有形態別等森林割合

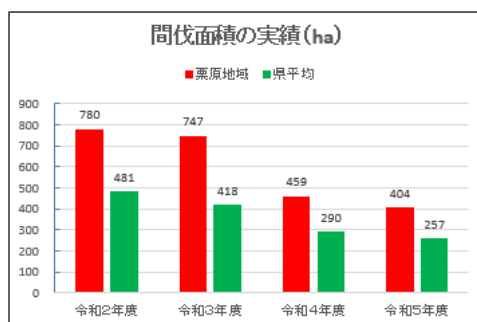


(2) 人工林の齢級別構成

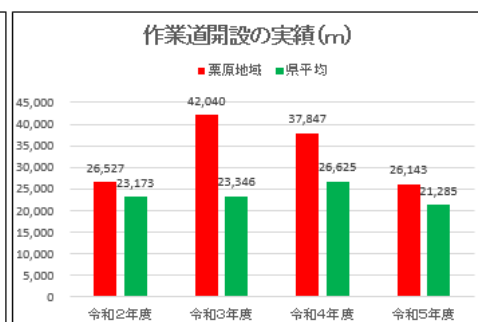
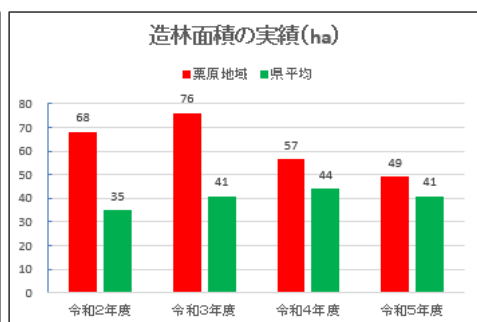


資料：人工林資源構成（令和5年3月31日現在）

(3) 間伐・造林・作業道開設

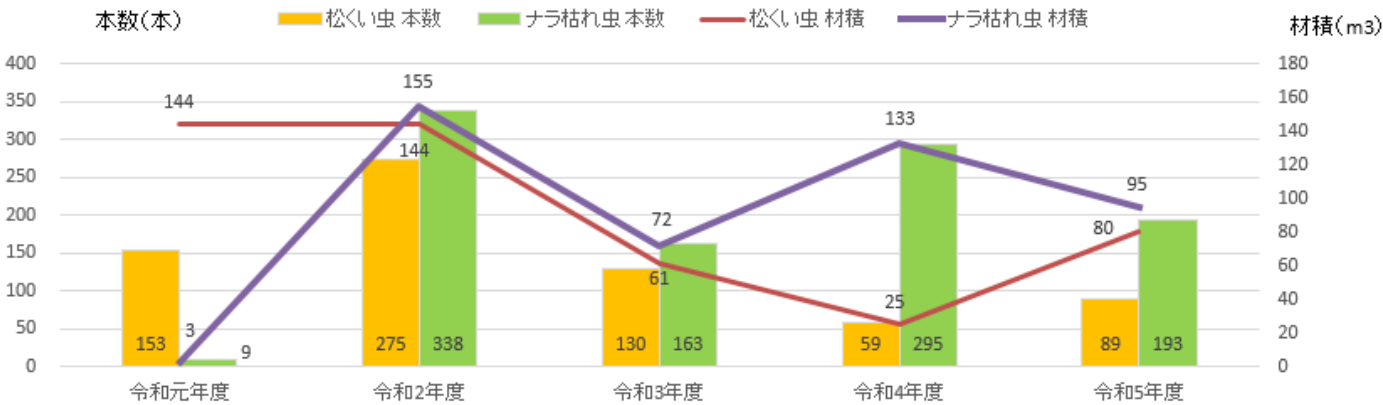


注：「県平均」は、7事務所の平均実績値



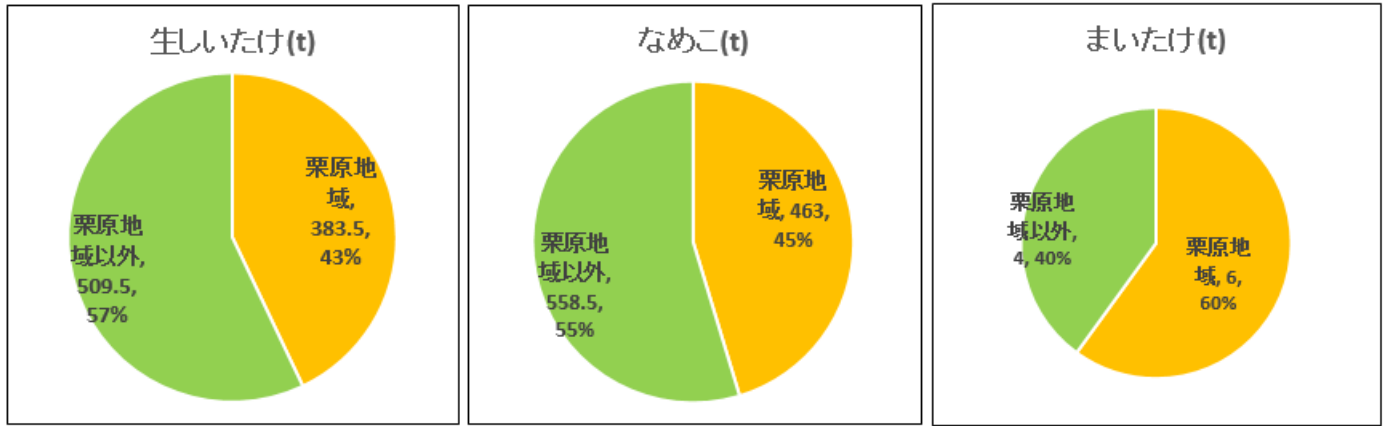
資料：森林整備の実績（令和6年11月宮城県水産林政部森林整備課作成）

(4) 森林病害虫等被害（松くい虫及びナラ枯れ）



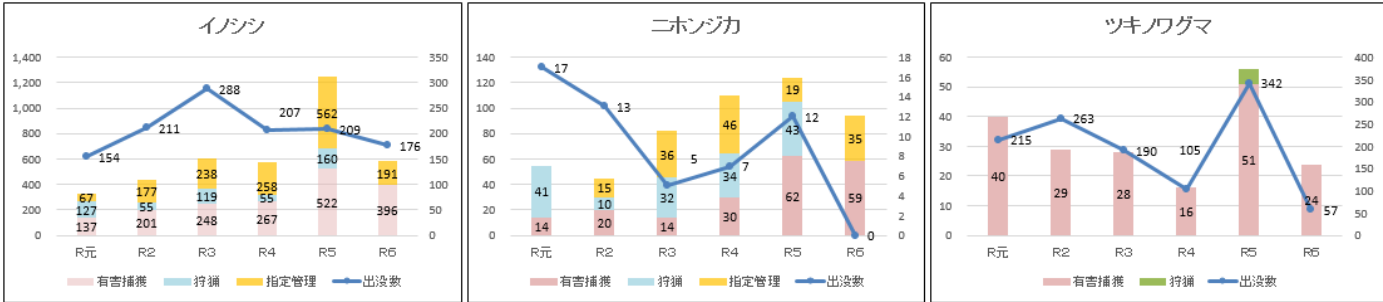
資料：宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所林業振興部調べ（令和7年2月28日現在）

(5) 特用林産物の生産量



資料：宮城県水産林政部林業振興課調べ（令和5年次）

(6) 有害鳥獣捕獲許可等



注1：有害捕獲は許可を得た捕獲であり、狩猟は狩猟期間内、指定管理は県の事業（ニホンジカのR元は対象外のため実績なし）による捕獲。
注2：ツキノワグマの捕獲頭数には、保護のための放獣したものを含む。
注3：令和5年度の数は12月末現在の数であり、狩猟による捕獲数は含まれていない。

資料：宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所林業振興部調べ（令和7年2月28日現在）

(7) 山地災害危険地区

区分	区域	地区数				左のうち治山対策着手	
		危険度A	危険度B	危険度C	計	件数	着手率
山腹崩壊危険地区	県計	264	320	252	836	361	43.2%
	栗原管内	45	33	36	114	82	71.9%
地すべり危険地区	県計	38	16	5	59	34	57.6%
	栗原管内	7	3	1	11	9	81.8%
崩壊土砂危険地区	県計	433	832	107	1372	775	56.5%
	栗原管内	36	111	15	162	123	75.9%
計	県計	735	1168	364	2267	1170	51.6%
	栗原管内	88	147	52	287	214	74.6%

資料：宮城県水産林政部森林整備課調べ（令和6年3月31日現在）

8 商工業

- 商業については、事業主の高齢化や後継者不足による廃業などが影響して、事業所数及び従業員数は減少傾向にあり、商品販売額を含め、県内7広域圏の中では最も低い水準にあります。地域の商工業者の経営支援などに重要な役割を果たす商工会も、会員数が年々減少しています。
- 工業については、事業主の高齢化などの影響で、商業と同様、事業所数は徐々に減少している一方で、トヨタ自動車東日本株式会社の宮城工場と岩手工場の中間に位置するという地の利を活かした自動車関連企業の集積等により、製造品出荷額等は、おおむね横ばい傾向にあります。なお、業種別では食料品が22.2%と大きな割合を占めています。

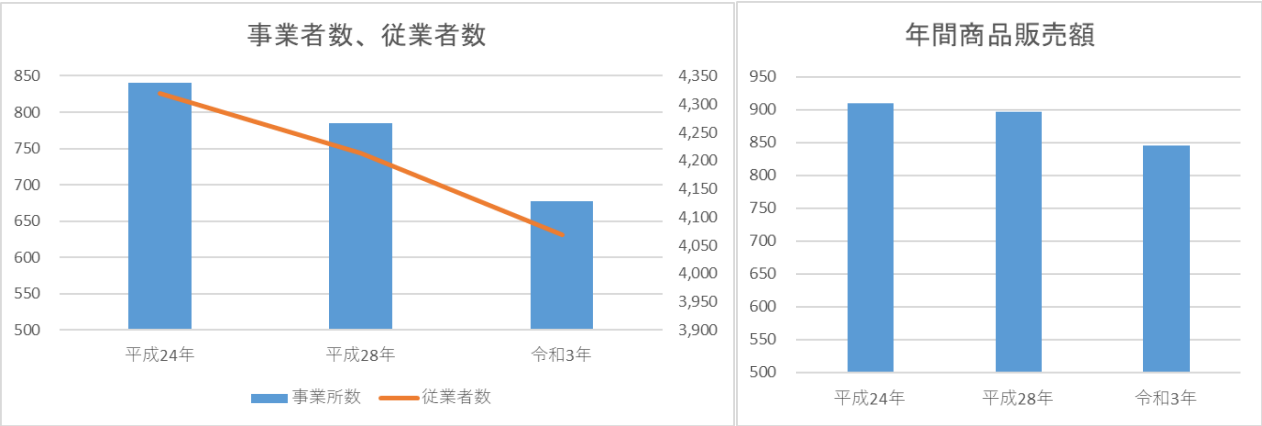
■ 商業

(1) 事業所数、従業者数及び年間商品販売額の推移

(単位：か所、人、億円)

	事業所数	従業者数	年間商品販売額
平成24年	840	4,319	910
平成28年	785	4,214	897
令和3年	677	4,068	845

資料：経済センサス活動調査(卸売業・小売業に関する集計)

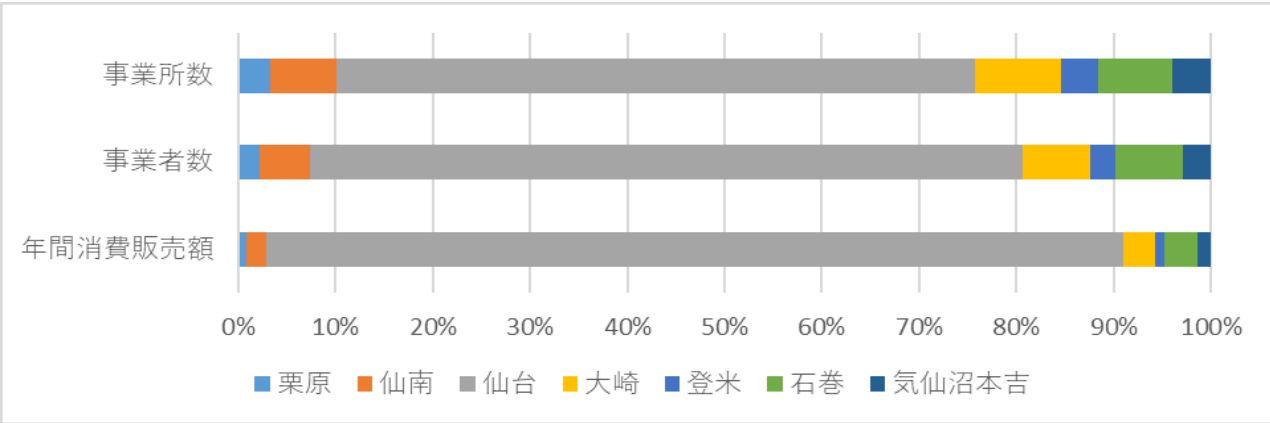


(2) 広域圏別事業所数、従業者数及び年間商品販売額

(単位：箇所、人、億円)

	栗原	仙南	仙台	大崎	登米	石巻	気仙沼本吉
事業所数	677 3.2%	1,457 6.9%	13,894 65.7%	1,868 8.8%	799 3.8%	1,628 7.7%	836 4.0%
事業者数	4,068 2.1%	10,003 5.3%	139,214 73.3%	13,214 7.0%	4,783 2.5%	13,105 6.9%	5,573 2.9%
年間商品販売額	845 0.8%	2,283 2.1%	96,786 88.2%	3,547 3.2%	1,116 1.0%	3,675 3.3%	1,537 1.4%

資料：経済センサス活動調査(卸売業・小売業に関する集計) (R3)



(3) 各商工会の会員数及び組織率の推移

(単位：人、%)

	栗原南部商工会			若柳金成商工会			栗駒鶯沢商工会			一迫花山商工会			合 計		
	会員数	商 工 業者数	組織率	会員数	商 工 業者数	組織率	会員数	商 工 業者数	組織率	会員数	商 工 業者数	組織率	会員数	商 工 業者数	組織率
令和元年度	704	1,319	53.4%	523	736	71.1%	376	510	73.7%	249	312	79.8%	1,852	2,877	64.4%
令和2年度	691	1,241	55.7%	502	698	71.9%	367	480	76.5%	247	293	84.3%	1,807	2,712	66.6%
令和3年度	705	1,241	56.8%	510	698	73.1%	357	480	74.4%	250	293	85.3%	1,822	2,712	67.2%
令和4年度	716	1,241	57.7%	512	698	73.4%	357	480	74.4%	247	293	84.3%	1,832	2,712	67.6%
令和5年度	703	1,241	56.6%	510	698	73.1%	355	480	74.0%	248	293	84.6%	1,816	2,712	67.0%

資料：商工会の現況（宮城県商工会連合会）

■ 工業

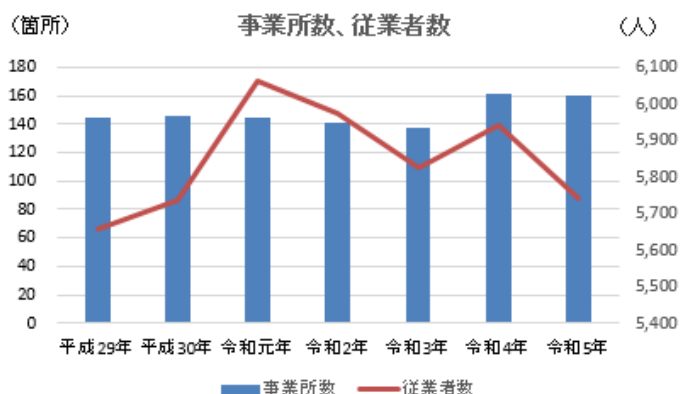
(1) 事業所数及び従業者数の推移

(単位：箇所・人／各年8月1日時点)

	事業所数	従業者数
平成29年	145	5,658
平成30年	146	5,738
令和元年	144	6,062
令和2年	141	5,974
令和3年	137	5,826
令和4年	161	5,940
令和5年	160	5,742

出典：宮城県の工業（H29～R3）、経済構造実態調査（R4、5）

※「宮城県の工業」と「経済構造実態調査」は調査対象事業所が異なる。



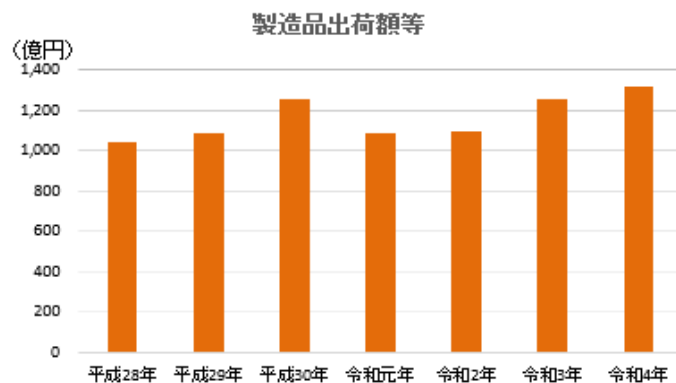
(2) 製造品出荷額等の推移

(単位：億円／各年1～12月)

	製造品出荷額等
平成28年	1,042
平成29年	1,092
平成30年	1,256
令和元年	1,088
令和2年	1,101
令和3年	1,254
令和4年	1,323

出典：宮城県の工業（H28～R2）、経済構造実態調査（R3、4）

※「宮城県の工業」と「経済構造実態調査」は調査対象事業所が異なる。



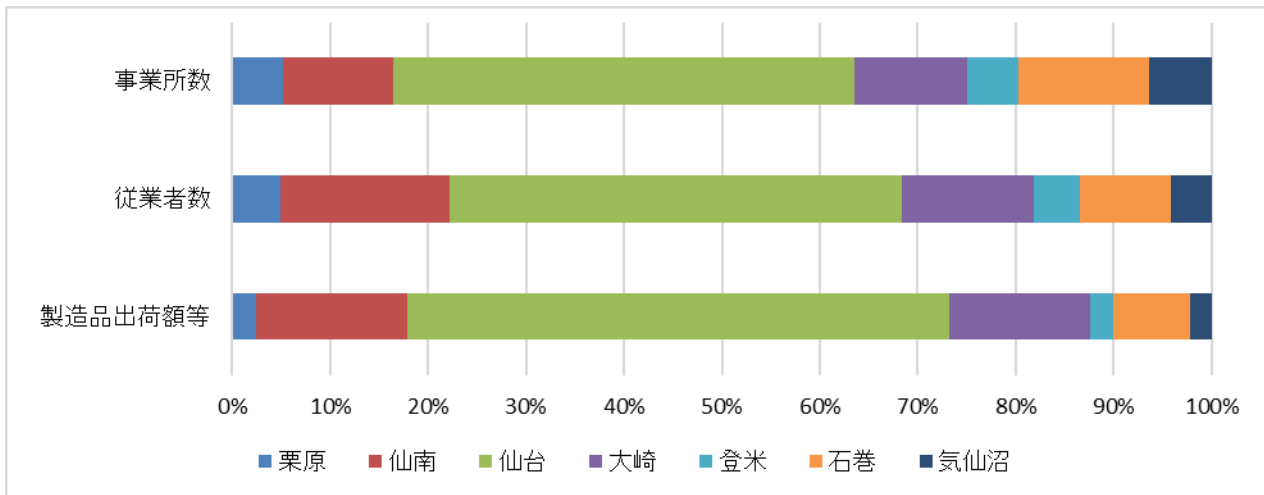
(3) 広域圏別事業所数、従業者数及び製造品出荷額等

(単位：箇所、人、億円)

	栗原	仙南	仙台	大崎	登米	石巻	気仙沼本吉
事業所数	180 5.1%	351 11.3%	1,467 47.1%	361 11.6%	161 5.2%	417 13.4%	199 6.4%
従業者数	5,742 4.9%	20,117 17.3%	53,627 46.1%	15,802 13.6%	5,442 4.7%	10,838 9.3%	4,778 4.1%
製造品 出荷額等	1,323 2.4%	8,499 15.5%	30,340 55.3%	7,891 14.4%	1,279 2.3%	4,322 7.9%	1,176 2.1%

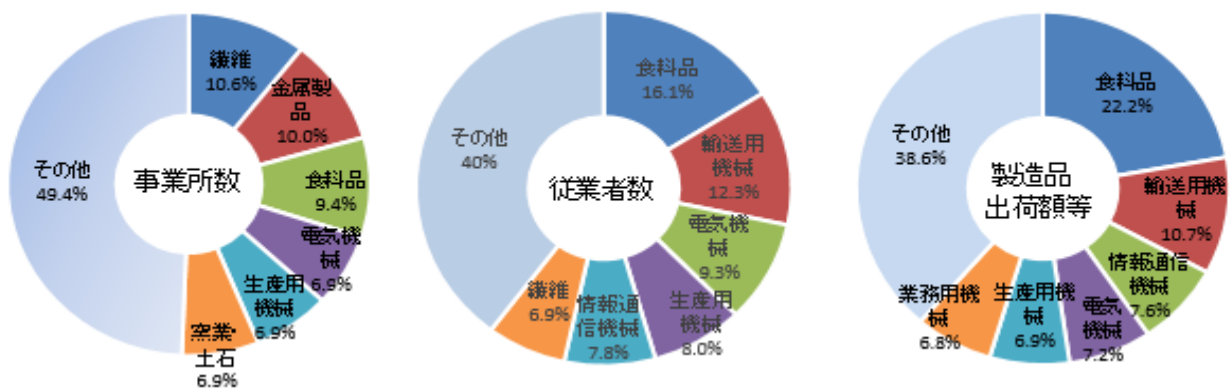
資料：令和5年経済構造実態調査

(事業所数、従業者数はR5.6.1時点、製造品出荷額等はR4.1.1～R4.12.31の実績)



(4) 栗原地域の事業所数、従業者数及び製造品出荷額等の業種別構成比

資料：令和5年経済構造実態調査



9 観光

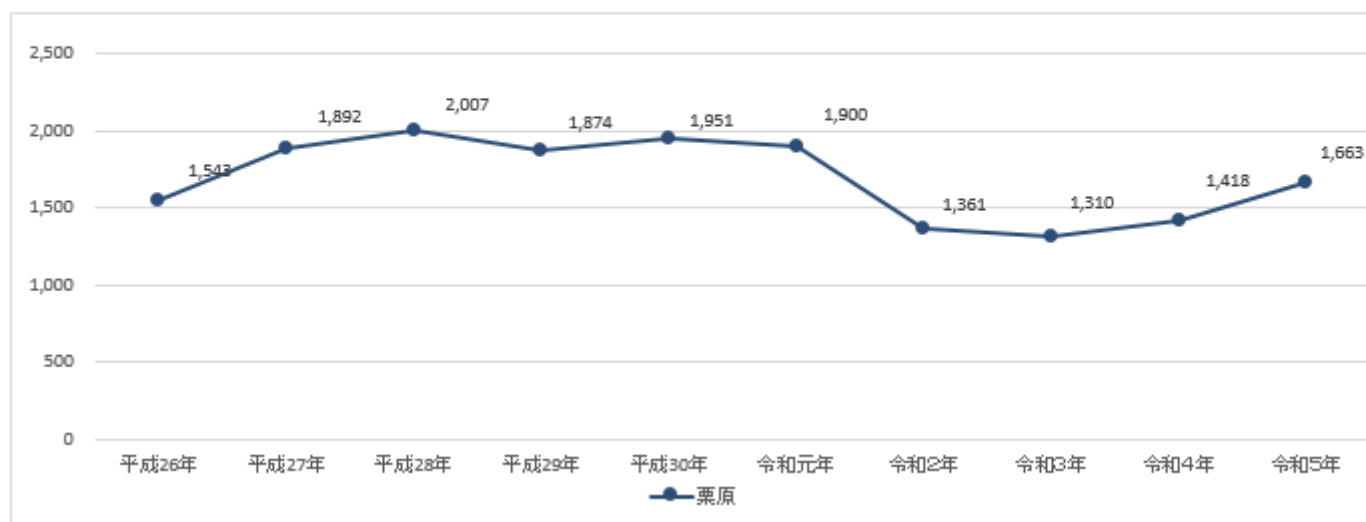
- 栗原地域への観光客入込数は令和元年までは 200 万人弱、また、宿泊観光客数は、毎年 10 万人を上回るペースで推移していましたが、令和 2 年以降は新型コロナウイルス感染症の影響等により、観光客入込数、宿泊観光客数ともに大きく落ち込みました。令和 4 年以降、観光客入込数、観光宿泊者数とも増加・回復しているものの、感染拡大前の令和元年水準までには至っていません。
- 県内 7 広域圏の中では、観光客入込数は最も少ないものの、豊かな自然などの観光資源が豊富にあり、栗駒山・いわかがみ平及びその周辺施設には例年多くの観光客が訪れています。
- 観光客入込数に対する宿泊客の割合が低く、また、宿泊客は県外より県内が多くなっており、栗原地域の魅力を発信し、できるだけ長く滞在していただくための取組が必要となっています。

(1) 観光客入込数の推移

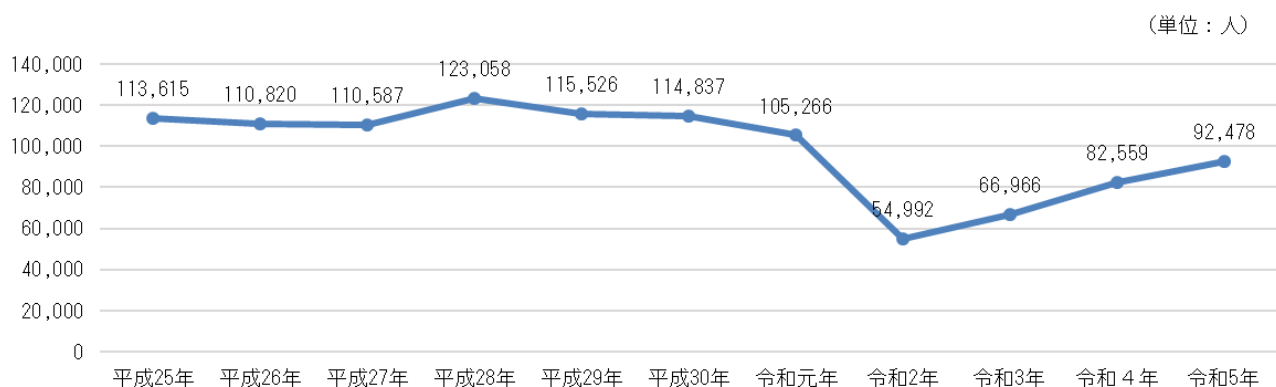
(単位：千人)

圏域名	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
栗原	1,543	1,892	2,007	1,874	1,951	1,900	1,361	1,310	1,418	1,663
宮城県	57,425	60,656	60,838	62,296	64,224	67,961	39,448	44,946	57,238	68,236

資料：宮城県観光統計概要



(2) 宿泊観光客数の推移



資料：宮城県観光統計概要

(3) 圏域別観光客入込数、宿泊観光客数

圏域名	観光客入込数（単位：千人）		宿泊観光客数（単位：千人）	
	令和元年	令和5年	令和元年	令和5年
仙台	36,789	39,360	7,421	7,273
大崎	9,406	8,094	768	537
仙南	7,182	6,702	710	631
石巻	5,502	6,368	379	419
登米	3,471	2,807	89	78
気仙沼本吉	3,711	3,242	416	404
栗原	1,900	1,663	105	92
宮城県	67,961	68,236	9,888	9,434

資料：宮城県観光統計概要

(4) 主要観光施設の観光客入込数

	(単位：人)					
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
栗駒山・いわかがみ平	163,450	143,350	129,280	93,720	111,260	139,890
道の駅「路田里はなやま」自然薯の館	148,344	135,433	154,739	124,917	129,071	128,459
山の駅くりこま			107,782	109,409	112,723	117,248
伊豆沼	105,400	113,200	71,500	90,110	68,050	87,160
内沼	84,000	73,000	36,580	39,020	43,230	75,960
金成温泉金成延年閣	107,880	104,965	74,777	76,158	87,641	72,562
細倉マインパーク	71,760	63,163	31,092	30,187	39,131	46,983
伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	33,247	33,493	25,222	30,544	28,488	32,551
国立花山青少年自然の家	64,108	62,185	12,288	16,760	23,540	28,568
あくりっこ金成	42,219	38,103	35,615	30,731	25,916	26,123
温湯温泉	26,000	25,780	19,279	23,187	18,177	25,028
ハイルザーム栗駒	22,478	31,456	17,120	16,311	14,619	19,377
栗駒山麓ジオパークビジターセンター			9,808	10,925	13,392	17,666
くりでんミュージアム			5,935	9,605	13,439	13,135
山王史跡公園あやめ園	8,641	7,727	1,765	2,430	5,430	4,362
愛蔵人・文字	3,062	3,144	3,047	2,336	3,028	3,291

資料：宮城県観光統計概要（伊豆沼及び内沼は栗原市資料による）

(5) 観光客入込数に占める宿泊観光客数の割合

	(単位：人)		
	観光客入込数(A)	宿泊観光客数(B)	割合(B/A)
栗原市	1,663,440	92,478	5.6%
宮城県	68,236,159	9,434,615	13.8%

資料：令和5年宮城県観光統計概要

(6) 居住地別宿泊観光客数

	(単位：人)								不明	合計
	県内	県外	北海道	東北	関東	中部	近畿	その他		
栗原市	47,536 51.4%	44,247 47.8%	632 0.7%	13,625 14.7%	18,964 20.5%	3,758 4.1%	2,001 2.2%	5,267 5.7%	695 0.8%	92,478 100.0%
宮城県	1,385,567 14.7%	3,438,839 36.4%	100,912 1.1%	872,674 9.2%	1,414,150 15.0%	278,295 2.9%	224,216 2.4%	548,592 5.8%	4,610,209 48.9%	9,434,615 100.0%

資料：令和5年宮城県観光統計概要



高収益作物であるばれいよ(じゃがいも)の播種(R6.4)

※ 写真は栗原市金成(津久毛地区)での
RTK 活用による自動操舵

収穫(R6.8)では、機械により収穫されたばれいよのうち、キズものや土塊などを手作業で選別し、綺麗なばれいよを出荷



牛肉のおいさの改良が期待される「百合博」号
(栗原市一迫産)

栗原産の原木いたけ(露地)



— 栗原地域の概要 —

令和 7 年 3 月発行

編集・発行 宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所
地方振興部商工・振興班

〒987-2251 宮城県栗原市築館藤木 5-1

電話 (0228) 22-2195